

質問に対する回答について  
工事名) 秋田自動車道 土洩工事

質問事項と回答

番号	質問事項	回 答
1	<p>特記仕様書P67 30-26            設計図 (8/12) 図面番号83/83            特記仕様書P67 30-26 はく落防止対策工 (4)の支払には、設計図 (8/12) 図面番号83/83 施工手順 準備工に記載の「障害物の除去」「欠損部の断面修復」等の費用は含まれるのでしょうか。            上記費用が含まれる場合は、金抜設計書該当単価項目に計上されている、計上項目毎の計上数量を併せてご教示願います。</p>	<p>はく落防止対策工 B 1に「障害物の撤去」「欠損部の断面修復」の費用は含まれません。            工事契約後、別途監督員が障害物の撤去等指示した場合における一般的な施工手順として取り扱ってください。</p>
2	<p>特記仕様書P67 30-26            特記仕様書P67 30-26 はく落防止対策工 (4)の支払に記載の移動足場について、高さ等機器詳細規格をご教示願います。</p>	<p>1車線ごとの施工で日々回送する計画としております。なお、機器詳細規格は貴社の施工計画に基づきお考えください。</p>
3	<p>特記仕様書P68 30-27-2            特記仕様書P68 30-27-2 構造物取壊し工 (1)の表に記載のコンクリート構造物取壊し (TypeB) 区分内容に記載の「存置物件の発生材仮置きヤードへの運搬」は、同表のコンクリート構造物切断により、切断された既設函渠ウイングを小割のため運搬する行為という解釈でよろしいでしょうか。ご教示願います</p>	<p>特記仕様書 1 8 - 1 に記載するグレーチングの運搬です。設計図 (11/12) 雑工 7/31 構造物等取壊し工 数量総括表の Ds-U<sup>^</sup>(GL)-0.30-0.3 を計画しています。</p>
4	<p>特記仕様書P68 30-27-2            特記仕様書P68 30-27-2 構造物取壊し工 (3)に記載の「コンクリート構造物の削孔」は、特記仕様書同項目(1)表のどの単価表の項目に含まれるのでしょうか。ご教示願います</p>	<p>設計図 (2/12) 溝渠工 (函渠工・管渠工) 10/67、26/67、44/67 の数量表をご確認ください。構造物取壊し工 コンクリート構造物切断です。</p>

5	<p>数量明細表P19 設計図 (2/12) 図面番号 1, 17, 58, 60, 62/67 数量明細表P19 通し番号220 コンクリート構造物取壊し(TypeA)について、溝渠工(函渠工・管渠工)で88.1m<sup>3</sup>の計上があります。</p> <p>上記、溝渠工(函渠工・管渠工)の設計図では、図面番号1, 17, 58, 60, 62/67において、コンクリート構造物取壊し(TypeA)の数量は、20.8m<sup>3</sup>, 13.5m<sup>3</sup>, 5.5m<sup>3</sup>, 2.6m<sup>3</sup>, 5.7m<sup>3</sup>の計48.1m<sup>3</sup>が確認できましたが、数量明細表に記載数値より40.0m<sup>3</sup>不足しております。</p> <p>上記不足数量40.0m<sup>3</sup>について、該当設計図のどの図面の構造物が該当するのでしょうか。ご教示願います。</p>	<p>設計図 (2/12) 溝渠工 (函渠工・管渠工) 51/67 の平面図にある STA. 151+28.50 (湯田-23C-BOX) C-Bx-4.00×5.00、54/67 の平面図にある STA. 168+40.03 (湯田-25C-BOX) C-Bx-4.70×4.50 の巻き込み部の既設ブロック積撤去の数量です。</p> <p>既設ブロック積撤去の数量は閲覧資料に記載のとおりです。</p>
6	<p>数量明細表P1 設計図 (9/12) 数量明細表P19 通し番号221 コンクリート構造物取壊し(TypeB)について、付帯工で17.4m<sup>3</sup>の計上があります。</p> <p>上記、付帯工の設計図で、取壊し箇所、取壊し数量の確認ができません。該当設計図のどの図面が、コンクリート構造物取壊し(TypeB)に該当するのでしょうか。ご教示願います。</p>	<p>設計図 (9/12) 付帯工 79/81 にある岩瀬橋 P 1 の既設護岸工撤去の数量です。</p> <p>既設護岸工撤去の数量は閲覧資料に記載のとおりです。</p>

7	<p>数量明細表P19 設計図 (2/12) 図面番号1/67 数量明細表P19 通し番号222 アスファルト舗装版取壊し(TypeA)について、溝渠工(函渠工・管渠工)で58.5m<sup>2</sup>の計上があります。</p> <p>上記、溝渠工(函渠工・管渠工)の設計図では、図面番号1/67でのみ、アスファルト舗装版取壊し(TypeA)の数量は、5.0m<sup>2</sup>が確認できましたが、数量明細表に記載数値より53.5m<sup>2</sup>不足しております。</p> <p>上記不足数量53.5m<sup>2</sup>について、該当設計図のどの図面が該当するのでしょうか。ご教示願います。</p>	<p>令和6年1月9日掲載「訂正公告1」を参照ください。</p> <p>訂正した設計図(2/12)溝渠工(函渠工・管渠工)1/67に記載のとおりです。</p>
8	<p>特記仕様書P68 30-27-2 設計図 (2/12) 図面番号47/67 特記仕様書P68 30-27-2 構造物取壊し工 (1)の表に記載のコンクリート構造切断は、全施工箇所、設計図 (2/12) 図面番号47/67 ステップ2に記載のウォールソーイング工法による切断をお考えでしょうか。</p> <p>また、上記ウォールソーイング工法は、「湿式」、「乾式」のどちらの方式をお考えでしょうか。併せてご教示願います。</p>	<p>ウォールソーイング工法は「湿式」を計画しています。</p> <p>なお当該設計図は、参考図になりますので貴社の施工計画に基づきお考えください。</p>
9	<p>特記仕様書P68 30-27-2 特記仕様書P68 30-27-2 構造物取壊し工 (1)の表に記載のコンクリート構造切断について、切断する既設函渠ウイング部の構造物に対する鉄筋量(鉄筋比率等)をご教示願います。</p>	<p>STA. 138+00 (湯田-21C-Box) C-Bx-4.70×5.25のウイング部には、D16鉄筋が1,287kg、D13鉄筋が20kg含まれております。</p> <p>STA. 148+40 (湯田-22C-Box) C-Bx-3.50×4.00のウイング部には、D16鉄筋が825kg、D13鉄筋が835kgが含まれております。</p> <p>STA. 171+29 (湯田-27C-Box) C-Bx-2.50×3.00のウイング部には、D16鉄筋が1037kg、D13鉄筋が54kg含まれております。</p>

1 0	<p>特記仕様書P73 30-30-2  特記仕様書P72, 73 30-30-2 表の項目材料区分に記載の「中古品」について、撤去後は、スクラップ処理をお考えでしょうか。ご教示願います。</p>	<p>令和6年1月13日掲載「質問に対する回答について⑬」質問番号10に対する回答のとおりです。</p>
1 1	<p>金抜設計書 番号227  設計図 (10/12) 図面番号36/273  金抜設計書 番号227 工事用仮栈橋工設置・撤去Cに含まれる以下の設置・撤去費用は設計図(10/12) 図面番号36/273に記載の200tクローラクレーンによる設置・撤去費用と考えてよろしいでしょうか。ご教示願います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上部工設置・撤去</li> <li>・下部工設置・撤去</li> <li>・覆工板設置・撤去</li> <li>・高欄設置・撤去</li> <li>・支持杭設置・撤去</li> </ul>	<p>工事用仮栈橋工 設置・撤去Cに含まれる費用は200tクローラクレーンによる以下の作業が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上部工設置・撤去</li> <li>・下部工設置・撤去</li> <li>・覆工板設置・撤去</li> <li>・高欄設置・撤去</li> <li>・支持杭設置・撤去</li> <li>・土留鋼矢板の設置・撤去</li> </ul>
1 2	<p>金抜設計書 番号227  設計図 (10/12) 図面番号36/273  金抜設計書 番号227 工事用仮栈橋工設置・撤去Cには、設計図(10/12)図面番号36/273の50tラフタークレーンによる、上部工桁の地組の費用は見込まれているのでしょうか。ご教示願います。</p>	<p>工事用仮栈橋C 上部工桁の地組は200tクローラクレーンで行うものとしてお考えください。なお、50tラフタークレーンは大型土のう設置のための機械です。</p>
1 3	<p>特記仕様書P72 30-30-2  設計図 (10/12) 図面番号16/273  特記仕様書P72 30-30-2 表の単価表の項目 工事用仮栈橋工 賃料C 材料規格等に記載の「主部材(PG型)」は、設計図(10/12) 図面番号16/273 2.2主部材(PG型)の表に記載の全ての品名の鋼材と理解すればよろしいでしょうか。ご教示願います。</p>	<p>主部材(PG型)のうち、Ⅲ型端部主桁とⅢ型中央主桁を計上するものとしてお考えください。</p>

14	<p>特記仕様書P72 30-30-2 設計図 (10/12) 図面番号 16, 29, 30, 31/273</p> <p>特記仕様書P72 30-30-2 表の単価表の 項目 工事中用仮橋工 賃料C 材料規格 等に記載の「H594)」は、設計図 (10/12) 図面番号16, 29, 30, 31/273 では、部材長 3.0mであることが確認できます。</p> <p>建設物価や積算資料等の一般紙では、 H594のスクラップ長は7m未満との記載があ り、上記部材長3.0mは、スクラップ長未満で あるため、賃料計上でなく、購入品計上 となるのではないのでしょうか。ご教示願 います。</p>	<p>特記仕様書30-30-2の材料区分 のとおり計上ください。</p> <p>なお、現地においてリース品の流通が 確認できない場合は別途監督員と協議 するものとお考えください。</p>
15	<p>特記仕様書P72 30-30-2 数量明細表P19 設計図 (10/12) 図面番号16/273</p> <p>特記仕様書P72 30-30-2 表の単価表の 項目 工事中用仮橋工 賃料C の仮橋設 置期間から31ヶ月の賃料期間であると判 断できます。</p> <p>数量明細表P19 通し番号228に記載の計 上数量7,221.659t・月を基に、上記賃料 期間を用い、対象鋼材質量を算出する と、<math>7,221.659\text{t} \cdot \text{月} \div 31\text{ヶ月} = 232.957\text{t}</math>と なります。</p> <p>特記仕様書P72 30-30-2 表の単価表の 項目 工事中用仮橋工 賃料Cの規格材料 等に記載の鋼材類質量を設計図 (10/12) 図面番号16/273の数量総括表の値を以下 のとおり合算すると248.217tとなり、上 記算出の232.957tと合致しません。</p> <p>&lt; 設計図の賃料鋼材重量 : 計 248.217t &gt;</p> <p>・覆工板 ----- 85.760t</p>	<p>令和5年12月22日掲載「質問に対 する回答について⑩」質問番号1に対 する回答のとおりです。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主部材(PG桁) ----- 124.718t</li> <li>・H400(下部工敷桁) ----- 5.676t</li> <li>・H594(下部工桁受) ----- 2.550t</li> <li>・H400(支持杭) ----- 9.030t</li> <li>・H400(支柱) ----- 13.223t</li> <li>・鋼矢板 ----- 7.260t</li> </ul> <p>上記設計図の鋼材のうち、賃料計上の対象物はどの部材と考えられているのでしょうかご教示願います。</p>	
16	<p>特記仕様書P72, P73 30-30-2 特記仕様書P72, 73 30-30-2 表の項目材料規格等に記載の「鋼板」について、現場毎の設計計画に合せた形状での製作加工となるため、中古品でなく、新品の購入品という事にはならないのでしょうか。ご教示願います。</p>	<p>土木工事積算基準第3編5-4(4)賃料計上限度額に基づき、特記仕様書30-30-2の材料区分のとおり計上ください。 なお、現地において中古品の流通が確認できない場合は別途監督員と協議するものとお考えください。</p>
17	<p>特記仕様書P72 30-30-2 設計図(10/12) 図面番号63/273 特記仕様書P72 30-30-2 表の工事用仮棧橋工 設置 Y1 項目材料規格等に記載の「特殊覆工板」について、設計図(10/12) 図面番号63/273にみるように、現場毎の設計計画線形に合せた形状での受注製作となるため、中古品でなく、新品という解釈でよろしいでしょうか。ご教示願います。</p>	<p>土木工事積算基準第3編5-4(4)賃料計上限度額に基づき、特記仕様書30-30-2の材料区分のとおり計上ください。 なお、現地において中古品の流通が確認できない場合は別途監督員と協議するものとお考えください。</p>

18	<p>特記仕様書P72 30-30-2  設計図 (10/12) 図面番号87/273  特記仕様書P72 30-30-2 表の単価表の  項目 工事中用仮橋工 設置Y1の設計計  画の使用クレーンについて、設計図 (10/12)  図面番号87/273より、支持杭打込は、65t  吊クレーン、支持杭打込以外は25t吊クレーン  という理解でよろしいでしょうか。  それとも最大吊上げ重機1台だけの計画  のどちらと理解すればよろしいのでしょ  うか。ご教示願います。</p>	<p>支持杭打込は、65t 吊クレーン、支持  杭打込以外は 25t 吊クレーン使用する  ものとお考えください。</p>
19	<p>特記仕様書P72 30-30-2  数量明細表P20  設計図 (10/12) 図面番号49/273  特記仕様書P72 30-30-2 表の単価表の  項目 工事中用仮橋工 賃料Y1 の仮橋  設置期間から37ヶ月の賃料期間であると  判断できます。  数量明細表P20 通し番号230に記載の計  上数量11,090.495t・月を基に、上記賃料  期間を用い、対象鋼材質量を算出する  と、<math>11,090.495\text{t} \cdot \text{月} \div 37\text{ヶ月} = 299.743\text{t}</math>  となります。  特記仕様書P72 30-30-2 表の単価表の  項目 工事中用仮橋工 賃料Cの規格材料  等に記載の鋼材類質量を設計図 (10/12)  図面番号49/273の数量総括表の値を以下  のとおり合算すると313.420tとなり、上  記算出の299.743tと合致しません。  &lt; 設計図の賃料鋼材重量 : 計  313.420t &gt;  ・覆工板 -----  192.816t  ・主部材(PG桁) -----  33.301t  ・H400(下部工敷桁) -----</p>	<p>令和5年12月22日掲載「質問に対  する回答について⑩」質問番号1に対  する回答のとおりです。</p>

	<p>15.136t  ・H400(下部工桁受) -----</p> <p>6.880t  ・H400(支持杭) -----</p> <p>43.602t  ・H400(支柱) -----</p> <p>20.729t  ・鋼矢板 -----</p> <p>0.960t  上記設計図の鋼材のうち、賃料計上の対象物はどの部材と考えられているのでしょうかご教示願います。</p>	
20	<p>特記仕様書P72,73 30-30-2, P74 30-30-5  特記仕様書P72,73 30-30-2 表の単価表の項目 工事用仮栈橋工の「設置・撤去」,「設置」について、特記仕様書P74,30-30-5 支払に含まれるコンクリートは、「設置・撤去」では取壊し・殻処分を含み、「設置」では取壊し・殻処分を含まないという理解でよろしいでしょうか。ご教示願います。</p>	<p>工事用仮栈橋工 設置・撤去には、工事用仮栈橋の撤去・取壊しが含まれております。なお、運搬・処分については別途監督員と協議するものとしてお考えください。</p> <p>工事用仮栈橋工 設置には、工事用仮栈橋の撤去・取壊し・処分が含まれておりません。</p>
21	<p>特記仕様書P72,73 30-30-2  特記仕様書P72,73 30-30-2 表の単価表の項目 工事用仮栈橋工の「設置・撤去」,「設置」に関わる鋼材の「賃料」について、「設置・撤去」に関わる「賃料」は、修理費・損耗費を含み、「設置」に関わる「賃料」は、修理費・損耗費を含まないという理解でよろしいでしょうか。ご教示願います。</p>	<p>工事用仮栈橋工 設置・撤去には、修理費・損耗費が含まれております。</p> <p>工事用仮栈橋工 設置には、修理費・損耗費のうち整備費が含まれております。</p>



<p>2 2</p>	<p>金抜設計書 番号234  設計図 (10/12) 図面番号165/273  金抜設計書 番号234 工事用仮栈橋工  設置・撤去A3に含まれる以下の設置・撤  去費用は設計図(10/12) 図面番号  165/273 に記載の50tクローラクレーンによる設  置・撤去費用と理解すればよろしいでし  ょうか。ご教示願います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上部工設置・撤去</li> <li>・下部工設置・撤去</li> <li>・覆工板設置・撤去</li> <li>・高欄設置・撤去</li> </ul>	<p>そのとおりです。</p>
<p>2 3</p>	<p>特記仕様書P73 30-30-2  数量明細表P20  設計図 (10/12) 図面番号146/273  特記仕様書P72 30-30-2 表の単価表の  項目 工事用仮栈橋工 賃料A3 の仮橋  設置期間から21ヶ月の賃料期間であると  判断できます。</p> <p>数量明細表P20 通し番号235に記載の計  上数量2,074.705t・月を基に、上記賃料  期間を用い、対象鋼材質量を算出する  と、<math>2,074.705t \cdot 月 \div 21ヶ月 = 98.795t</math>と  なります。</p> <p>特記仕様書P73 30-30-2 表の単価表の  項目 工事用仮栈橋工 賃料A3の規格材  料等に記載の鋼材類質量を設計図  (10/12) 図面番号146/273の数量総括  表の値を以下のとおり合算すると  100.736tとなり、上記算出の98.795tと合  致しません。</p> <p>&lt; 設計図の賃料鋼材重量 : 計  100.736t &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・覆工板 -----  57.408t</li> <li>・主部材(PG桁) -----</li> </ul>	<p>令和5年12月22日掲載「質問に対  する回答について⑩」質問番号1に対  する回答のとおりです。</p>

	<p>13. 193t</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ H800(上部工主桁) -----</li> </ul> <p>7. 452t</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ H900(上部工主桁) -----</li> </ul> <p>10. 080t</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ H400(下部工受桁) -----</li> </ul> <p>4. 816t</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ H300(下部工敷桁) -----</li> </ul> <p>2. 604t</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ H350(下部工敷桁) -----</li> </ul> <p>2. 026t</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ H400(下部工高さ調整材) --</li> </ul> <p>0. 446t</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ H300(支柱) -----</li> </ul> <p>2. 711t</p> <p>上記設計図の鋼材のうち、賃料計上の対象物はどの部材と考えられているのでしょうかご教示願います。</p>	
24	<p>特記仕様書P73 30-30-2  設計図(10/12) 図面番号146/273  特記仕様書P72, 73 30-30-2 表の単価表の項目 工事用仮栈橋工 賃料 A3の材料規格等に記載の「H800」, 「H900」は、設計図(10/12) 図面番号146/273 上部工数量表に記載の「H800×300×14×26」, 「H900×300×16×28」と思われますが、これら鋼材は、リース材として市場性のない鋼材ですが、当初設計では賃料で計上とされていると理解し見積りを行えばよろしいのでしょうか。ご確認願います。</p>	<p>土木工事積算基準第3編5-4(4) 賃料計上限度額に基づき、特記仕様書30-30-2の材料区分のとおり計上ください。</p> <p>なお、現地においてリース品の流通が確認できない場合は別途監督員と協議するものとお考えください。</p>

25	<p>金抜設計書 番号236 設計図 (10/12) 図面番号224/273 金抜設計書 番号236 工事用仮棧橋工 設置Iには、設計図(10/12)図面番号 224/273の50tラフタークレーンによる、上部工桁 の地組費用は含まれるのでしょうか。ご 教示願います。</p>	<p>工事用仮棧橋 I 上部工桁の地組は 90t クローラクレーンで行うものとしてお 考えください。なお、50t ラフターク レーンは大型土のう設置のための機械 です。</p>
26	<p>特記仕様書P73 30-30-2 数量明細表P20 設計図 (10/12) 図面番号198/273 特記仕様書P72 30-30-2 表の単価表の 項目 工事用仮棧橋工 賃料Iの仮橋設置 期間から39ヶ月の賃料期間であると判断 できます。 数量明細表P20 通し番号237に記載の計 上数量7,565.021t・月を基に、上記賃料 期間を用い、対象鋼材質量を算出する と、<math>7,565.021\text{t} \cdot \text{月} \div 39\text{ヶ月} = 193.975\text{t}</math>と なります。 特記仕様書P73 30-30-2 表の単価表の 項目 工事用仮棧橋工 賃料Iの規格材料 等に記載の鋼材類質量を設計図 (10/12) 図面番号198/273の数量総括表の値を以下 のとおり合算すると211.466tとなり、上 記算出の193.975tと合致しません。 ＜ 設計図の賃料鋼材重量 : 計 211.466t ＞ ・ 覆工板 ----- 103.456t ・ 主部材(PG桁) ----- 95.828t ・ H400(下部工敷桁) ----- 2.752t ・ H400(下部工桁受) ----- 5.590t ・ 土留鋼矢板(SP-3型) -----</p>	<p>令和5年12月22日掲載「質問に対 する回答について⑩」質問番号1に対 する回答のとおりです。</p>

	<p>3.840t</p> <p>上記設計図の鋼材のうち、賃料計上の対象物はどの部材と考えられているのでしょうかご教示願います。</p>	
27	<p>金抜設計書 番号238,240 設計図(10/12) 図面番号266/273</p> <p>金抜設計書 番号238,240 工事中用仮橋橋工 設置T1,T2には、設計図(10/12)図面番号266/273の50tラフタークレーンによる、上部工桁の地組費用は含まれるのでしょうか。ご教示願います。</p>	<p>工事中用仮橋橋 I 上部工桁の地組は 70t ラフタークレーンで行うものとしてお考えください。なお、50t ラフタークレーンは大型土のう設置のための機械です。</p>
28	<p>特記仕様書P73 30-30-2 数量明細表P20 設計図(10/12) 図面番号225/273</p> <p>特記仕様書P72 30-30-2 表の単価表の項目 工事中用仮橋橋工 賃料T1の仮橋設置期間から22ヶ月の賃料期間であると判断できます。</p> <p>数量明細表P20 通し番号239に記載の計上数量7,027.149t・月を基に、上記賃料期間を用い、対象鋼材質量を算出すると、<math>7,027.149\text{t} \cdot \text{月} \div 22\text{ヶ月} = 319.416\text{t}</math>となります。</p> <p>特記仕様書P73 30-30-2 表の単価表の項目 工事中用仮橋橋工 賃料T1の規格材料等に記載の鋼材類質量を設計図(10/12) 図面番号225/273の数量総括表の値を以下のとおり合算すると335.483tとなり、上記算出の319.416tと合致しません。</p> <p>&lt; 設計図の賃料鋼材重量 : 計 335.483t &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・覆工板 ----- 149.248t</li> <li>・主部材(PG桁) ----- 116.774t</li> </ul>	<p>令和5年12月22日掲載「質問に対する回答について⑩」質問番号1に対する回答のとおりです。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ H400(下部工受桁) ----- 12. 212t</li> <li>・ H400(下部工敷桁) -----</li> </ul> <p>8. 944t</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ H300(下部工敷桁) -----</li> </ul> <p>4. 836t</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ H400(下部工桁受) -----</li> </ul> <p>26. 058t</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ H300(杭材支柱) -----</li> </ul> <p>11. 171t</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土留鋼矢板(SP-3型) -----</li> </ul> <p>6. 240t</p> <p>上記設計図の鋼材のうち、賃料計上の対象物はどの部材と考えられているのでしょうかご教示願います。</p>	
29	<p>特記仕様書P73 30-30-2 数量明細表P21 設計図(10/12) 図面番号228/273 特記仕様書P72 30-30-2 表の単価表の項目 工事中用仮橋工 賃料T2の仮橋設置期間から22ヶ月の賃料期間であると判断できます。</p> <p>数量明細表P21 通し番号241に記載の計上数量1,731.296t・月を基に、上記賃料期間を用い、対象鋼材質量を算出すると、<math>1,731.296t \cdot 月 \div 22ヶ月 = 78.695t</math>となります。</p> <p>特記仕様書P73 30-30-2 表の単価表の項目 工事中用仮橋工 賃料T2の規格材料等に記載の鋼材類質量を設計図(10/12) 図面番号228/273の数量総括表の値を以下のとおり合算すると83.023tとなり、上記算出の78.695tと合致しません。</p> <p>&lt; 設計図の賃料鋼材重量 : 計83.023t &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 覆工板 -----</li> </ul>	<p>令和5年12月22日掲載「質問に対する回答について⑩」質問番号1に対する回答のとおりです。</p>

	<p>40.704t</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主部材(PG桁) ----- 34.903t</li> <li>・H400(下部工敷桁) ----- 3.096t</li> <li>・土留鋼矢板(SP-3型) ----- 4.320t</li> </ul> <p>上記設計図の鋼材のうち、賃料計上の対象物はどの部材と考えられているのでしょうかご教示願います。</p>	
30	<p>特記仕様書P76 30-31-5  特記仕様書P76 30-31-5 支払 (1),  (2)より、中間混合処理,バック杓混合処理の費用には、現場クワリング,配合試験の費用が、技術管理費(率)とは別に各単価項目に別途積上げにて計上されていると理解すればよろしいのでしょうか。ご教示願います。</p>	<p>土木工事共通仕様書1-29-2に記載のとおり、特記仕様書に示す試験施工等は諸経費に含むものとしてお考えください。</p>
31	<p>数量明細表P21  数量明細表P21 通し番号244 改良材Aの数量1.0t, 447.1tは、設計数量と思われますが、当該項目の単価表には、材料ロスを見込んでおられるのでしょうか。その場合、ロス率も併せてご教示願います。</p>	<p>軟弱地盤改良工 改良材 Aについて、数量は設計数量であり、材料ロスを見込んだ費用を計上ください。なお、ロス率については、積算に関わる内容ですのでお答えできません。</p>
32	<p>特記仕様書P84 30-38  特記仕様書P84 30-38(2) 表 「設計図書に示す記号」に、記載の立入防止柵類のFENCE-S3A(3)-L, FENCE-SA4(3)-L, 出入口FENCE-SA3(3), 出入口FENCE-SA4(3)について、それぞれの質量をご教示願います。</p>	<p>立入防止柵標準図集を参照のうえ、貴社にて算出してください。</p>

3 3	<p>特記仕様書P41 30-6 数量明細表P1 特記仕様書P41 30-6の構造物掘削 普通部Aについて、区分内容の欄に「附帯工」、「工事用道路・工事用進入路・施工ヤード・工事用仮栈橋」の記載がありませんが、数量明細表P1には数量が記載されていますが区分内容に施工内容等の記載漏れは無いでしょうか。ご教示願います。</p>	<p>構造物掘削 普通部 Aには、橋台部・橋脚部の護岸工箇所・仮設補強土壁工箇所の掘削を含むものとしてお考えください。</p>
3 4	<p>特記仕様書P54 30-16 型わく工 C1について、起点側面壁(前面)は化粧型わくと記載がございますが、見積条件としての化粧詳細規格をご教示願います。</p>	<p>土洩トンネル起点側面壁の化粧は石乱積みとお考えください。</p>
3 5	<p>特記仕様書30-33 隔壁工について、” 接続部の漏水防止として防水シートを巻きつける” とあり、同項目(3)材料においてシートの規格が表示されております。 一方、06-02設計図(溝渠工)の59/67では、シーリング材として瀝青材(t=20mm)(94L/m)の表記があります。当初設計ではどちらで計上されているのでしょうか?ご教示ください。</p>	<p>特記仕様書30-33(3)を満たす材料を使用するものとしてお考えください。</p>